

ウェビナー『事例から考える地域探究の方法論』資料

# 修学旅行向け探究ワークブック制作 から見えた地域探究推進のヒント

株式会社トモノカイ  
小川史晃

# 株式会社トモノカイ



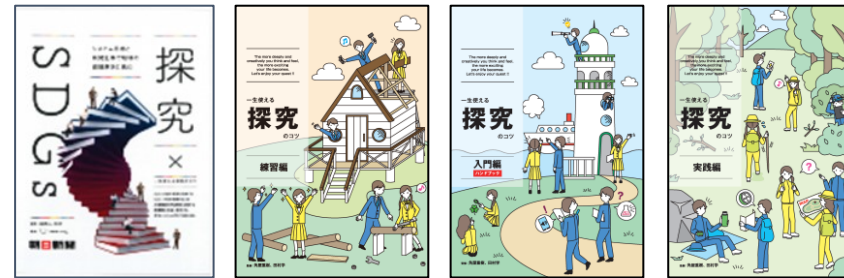
社名	株式会社トモノカイ (英語表記: Tomonokai Co.,Ltd.)
設立	2000年4月7日(1992年に学生任意団体として設立)
役員	代表取締役 徳岡 臣紀 取締役 原口 陽一郎 取締役 横山 茂興
所在地	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-24 東建・長井ビル5階
事業内容	1.家庭教師紹介事業 2.塾講師求人広告事業 3.学習デザイン事業(学校向け教育支援) 4.グローバル教育共創事業(学校向け教育支援) 5.学生メディア事業
許可番号	労働者派遣業 厚生労働大臣許可 派13-07-0516 有料職業紹介業 厚生労働大臣許可13-ユ-070429
取引先銀行	三菱東京UFJ銀行 渋谷中央支店
DB登録大学生	首都圏難関大中心に30万人超の大学生DBを保有  <p>総会員数: 319,057名 (2019年12月時点)</p>

- 首都圏**40校超**の放課後学習支援プログラム導入実績

- **グローバル体験**プログラム等、年間**200校・3万人**の教育イベント実績  
(経済産業省キャリア教育アワード)



- 探究教材開発・出版(朝日新聞社/自社開発)



- 協賛企業数業界最多級の探究コンテスト実施(当社調べ)



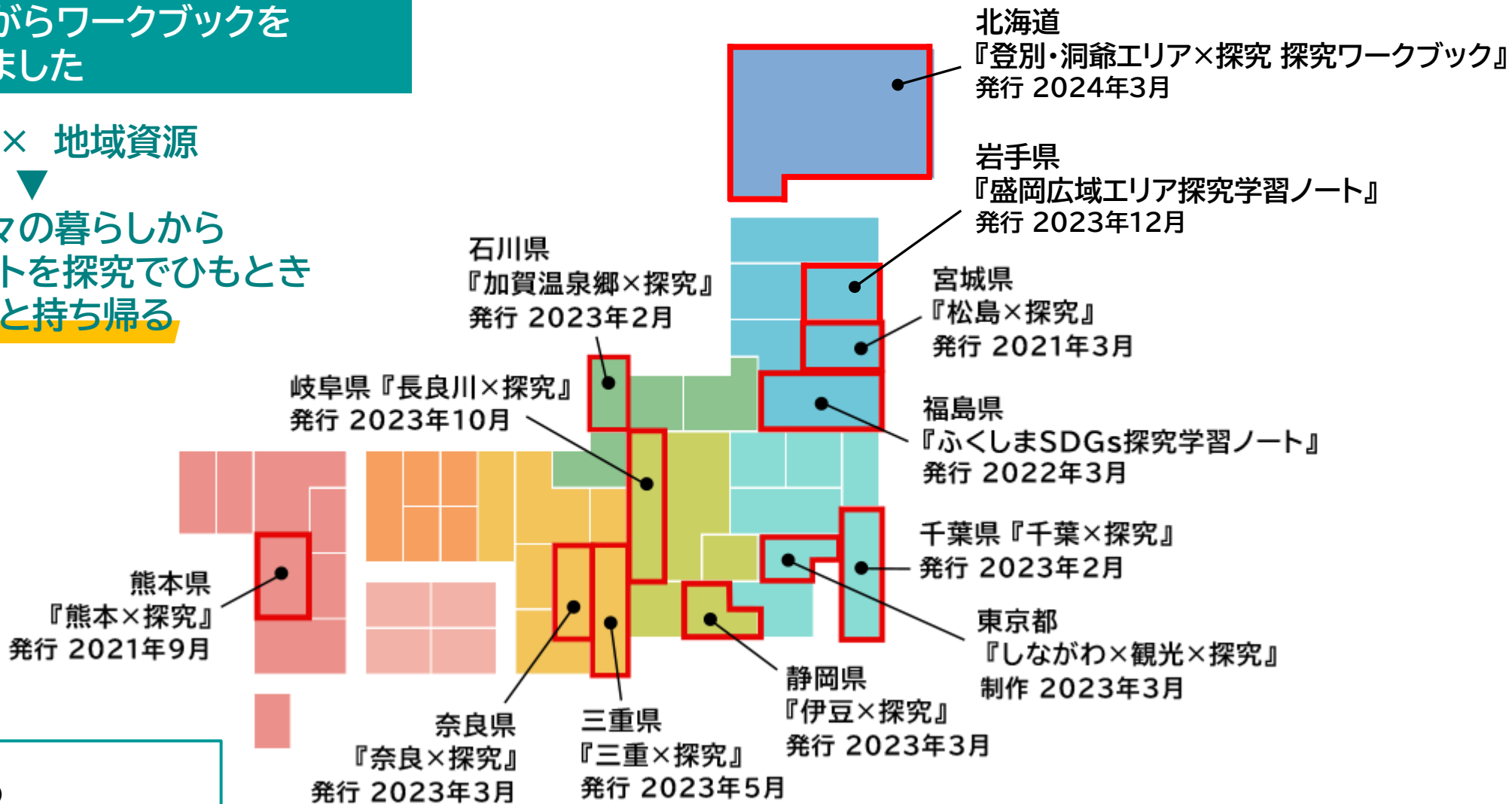
## 自由すぎる研究EXPO

企業や大学・自治体等  
37団体が参画  
(2024年5月時点)

さまざまな地方自治体様・日本旅行様と  
ともに探究しながらワークブックを  
制作してまいりました

SDGs × 地域資源

地域の人々の暮らしから  
課題解決のヒントを探究でひもとき  
地元へと持ち帰る



<編集協力>

田村学 先生(元・國學院大學教授)

木村諭史 先生(元・千葉大学客員准教授/工学博士)

# 旅先での学びを地元に戻るとは



街灯が無いから  
満点の星空！

相手にとっては日常  
なので  
“非”ではなく“異”

面白い！非(異)日常

当たり前

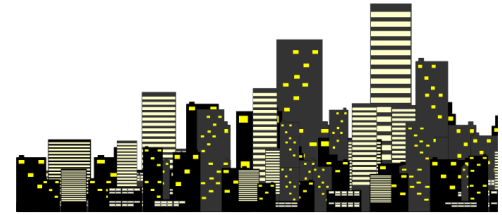
当たり前

面白い！非(異)日常

旅先

“他者の目”  
(気づくチカラ)

地元

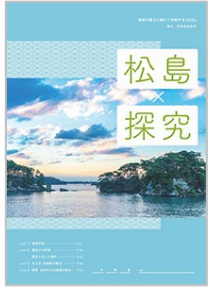


旅先だからこそ気づきやすい学びがある  
それを地元にも持ち帰り、探究のきっかけとする

地域のテーマ  
と探究資源の  
関連性を読み  
解く

地域のテーマが  
顕在的

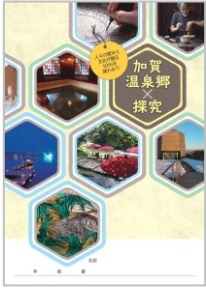
知られている  
ものを  
掘り下げる



エリア内の  
資源分散

エリア内の  
資源集中

トピックを拾い  
上げて  
地域テーマを  
把握する



地域のテーマが  
潜在的

探究資源から  
地域テーマを  
掘り起こす



# 知られているものを掘り下げる

- エリア内の学習資源が比較的集中している(活動範囲が限定的)
- テーマが顕在化しており把握しやすい

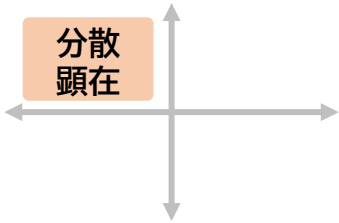


1. 活動手法: 地図を活用して街歩きを中心とした活動を設計
2. 顕在化しているテーマを支えるトピックを見つける
3. 昔と今の比較から意味合いの変化を読み解く
4. 地域の人々の愛着がテーマとどのような結びつきを持つか掘り下げる

例) 探究資源が集中しておりテーマが顕在的なエリア

- 奈良市: 古都としての歴史、これから歴史となっていくもの
- 品川エリア: 宿場町としての成り立ちと観光産業
- 松島町(宮城県): 江戸時代以前の伝統的なものと震災復興や自然、新しい魅力





# 地域のテーマと探究資源の関連性を読み解く

- エリア内の探究資源が広く分散している(県全域や半島全域など)
- テーマは顕在化しており把握しやすい

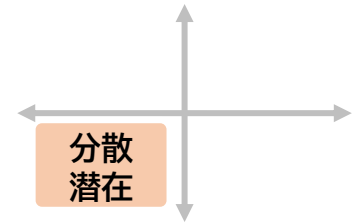


1. 活動手法:特定のスポットを任意の組み合わせで複数巡る
2. 全てを網羅することはできないので、どこを訪れても分析できるようにエリア内の共通項(顕在テーマ)を軸に切り口を見つける
3. 共通項が地域の人にとってどのような意味があるかを考察する
4. そうして立てた仮説を複数のスポットで検証してみる

例)探究資源が分散しておりテーマが顕在的なエリア

- 伊豆半島:エリア内に通底している「美しさ」を基に訪問先の探究資源を地域テーマに結び付けて考察する
- 福島県:3つに分かれる地域(浜通り・中通り・会津)のうち訪問先の体験を地域テーマの観点で見つめる

# トピックを拾い上げて地域テーマを把握する



- エリア内の探究資源が広く分散している(県全域や半島全域など)
- テーマも潜在的なため掘り起こす必要がある



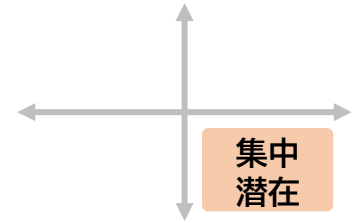
1. 活動手法: 特定のスポットを任意の組み合わせで複数巡る
2. エリア特有のトピックを集めていくことで文脈を構成し、そこから地域テーマを読み解く

例) 探究資源が分散しておりテーマが潜在的なエリア

- 千葉県: 各地域の特徴と他地域との「つながり」から地域の特有さを見つけることで地域テーマにつなげていく
- 三重県: 地域ごとに異なる特徴を「SDGsコンセプト」で整理することで地域テーマを読み解く



# 探究資源からテーマを掘り起こす



- エリア内の探究資源が比較的集中している  
(テーマが潜在的なため市町村よりは広域になる可能性が高い)
- テーマは潜在的であり掘り起こす必要がある



1. 活動手法: 特定のスポットを任意の組み合わせで複数巡る
2. エリア内の地域の共通項(地域テーマ)を見つける
3. 共通項が地域の人にとってどのような意味があるかを考察する
4. そうして立てた仮説を複数のスポットで検証してみる

例)

- 長良川流域(岐阜県): 清流や農業遺産 → 【掘り起こし】地域に魅了された野生の起業家たちの生きざま
- 加賀温泉郷(石川県): 温泉文化を中心とした風土 → 【掘り起こし】温故知新とSDGs
- 熊本市・阿蘇市(熊本県): 火の国・水の国 → 【掘り起こし】自然がもたらす災いと恵み × 人々の営み

# まとめ

- 学習資源の密度に応じて適した活動は変わらざるを得ない
- テーマの顕在性に応じて探究的なアプローチを使い分けることで、より効果的な探究が行えると考える
- 顕在的: テーマから掘り下げるアプローチ
- 潜在的: 見取り方・考え方を使ってテーマを発見するアプローチ
- 教育旅行では地元ではない地域での探究活動となるため、継続的な活動につなげにくい
- 旅行先で得られた気づきや学びをいかに地元を持ち帰り、継続的な探究活動の起点とできるかを考えられると良い

ご清聴ありがとうございました